

糖尿病・腎臓病教室についてのお知らせ

「食事と運動こそすべての養生の基本」であるということを基本に、毎回楽しく学べる体験型の教室です。当院受診の方だけでなく、ご家族の方や他の病院に通院の方、糖尿病、腎臓病ではなくても関心のある方ならどなたでも参加していただけます。

参加無料

糖尿病教室開催日程

9/25 (金) 11/27 (金)

1/22 (金) 3/26 (金)

時間帯：14:00～15:00

腎臓病教室開催日程

10/20 (火) 12/15 (火)

2/16 (火)

時間帯：14:00～15:20

お申し込みまたはお問合せ先

栄養管理課：059-375-1313

※都合により日時・内容が変更になる場合がありますので、ご了承ください。

※やむを得ず中止させていただく場合がございます。

最新情報につきましては病院ホームページをご確認下さい。



AIでより速く、より鮮明に患者さんにやさしいMRIへ

当院では、2026年10月1日より1.5T MRI装置を最新バージョンへアップいたします。AI技術の導入により、短時間でより鮮明な画像撮影が可能になります。腹部検査では息止めの負担も軽減され、より快適に検査を受けていただけます。なお、工事期間は2026年8月26日から9月30日までです。ご理解のほどよろしくお願いいたします。



MRI-USフュージョン前立腺生検システム導入

前立腺生検の最新システムを導入しました。前立腺がんは早期に発見し、適切な治療につなげることが大切です。

当院では最新のMRI-USフュージョン前立腺生検システムを導入し、より正確な診断と患者さんの安心につながる医療の提供に努めています。前立腺がんが心配な方やPSA高値を指摘された方は、お気軽に泌尿器科へご相談ください。



病院の理念

生命への奉仕

病院の方針

- ▶ 個人の尊厳を守ります
- ▶ 地域の基幹病院として医療機関と連携し健康の増進に貢献します
- ▶ 災害時に救援活動を行います
- ▶ チーム医療を推進し安全で高度な医療を提供します
- ▶ 将来を担う有能な医療従事者の育成に努めます
- ▶ 働きやすく健全な病院運営に努めます

ほっと smile

令和7年度

業務改善事例表彰

院内各部署から業務改善に向け業務の効率化に資する取り組みを募集し、その中から汎用性が高く効果のある取り組みを選考・表彰を行いました。

最優秀賞：栄養管理課

「増えてます、特別食加算!!～算定率向上に向けての取り組み」

優秀賞：薬剤管理課

「配薬管理薬剤のチェック体制見直しによるヒヤリ・ハット減少に向けた取り組み」

努力賞：嚥下チーム

「全病棟での摂食機能療法定算定に向けた取り組み」

他に特別賞として5部門が選ばれました。

鈴鹿回生病院
公式 LINE

@588uhbko



編集後記

皆さんから本誌へのご意見・ご感想・ご要望等がございましたら、広報委員会までお寄せください。



鈴鹿回生病院 広報委員会
〒513-0836 三重県鈴鹿市国府町112番地の1
TEL059-375-1212 mailinfo@kaiseihp.com

回生 ニュース

社会医療法人 峰和会

K a i s e i N e w s

146号

2026.9月発行

発行/社会医療法人 峰和会

編集/鈴鹿回生病院

所在地/鈴鹿市国府町112番地の1

TEL/059-375-1212

FAX/059-375-1717

URL/http://www.kaiseihp.com

編集協力/TCKnagoya

- 1 医療の現場から「患者支援センター」
- 2 あなたの街のお医者さん「落合小児科医院」
- 3 鈴鹿回生病院診療担当医師一覧表
- 4 交通案内(三重交通バス・シャトルバス時刻表)
鈴鹿回生病院附属クリミック診療担当医師一覧表
- 5 健康コーナー「医食動源」
・身近にあるものを使ったエクササイズ
・いなりつくね
- 6 病院薬剤師によるくすりと健康情報局vol.11
・抗がん剤治療を地域で支える
～抗がん剤治療における薬薬連携～
- 7 Information ほっと smile 他

第16回 亀山市

脳卒中・循環器病市民公開講座

を開催します。

入場無料

今回のテーマは、

ある日、突然倒れないために

～働き盛り世代の脳卒中、
その後のてんかん・認知症と循環器病の話～

「自分と家族を守るために今日からできること」

日時 令和8年 10月24日(土)
13:00～16:00

場所 亀山市文化会館(亀山市東御幸町63番地)

脳卒中と循環器病に関する
専門医4名による講演を
予定しています

安心をつなぐ 患者支援センター

Supporting Every Step



病気やけがで入院が決まったとき、患者さんやご家族は治療への不安だけでなく、入院生活や退院後の暮らしなど、さまざまな思いを抱えています。そんな患者さんやご家族を、入院前から退院後まで切れ目なく支えているのが患者支援センターです。

患者さんとご家族の不安に寄り添う

患者支援センター課長を務める津田京子さんは、主に予定入院される患者さんへの入院前支援を担当しています。入院生活の説明や持ち物の確認、服薬内容の確認、退院後の生活を見据えた聞き取りなどを行い、不安なく入院当日を迎えられるようサポートしています。

「一番大切にしているのは、患者さんの不安を取り除くことです」。津田さんはそう穏やかに話します。

「患者さんだけでなく、ご家族も不安を抱えて来院されます。表情や会話の様子から、その方が何を心配されているのかを感じ取り、安心して治療に臨んでいただけるよう心掛けています」。

病棟看護師として長年勤務してきた経験があるからこそ、「入院前にもう少し説明できていたら、患者さんはもっと安心できたのでは」と感じる場面も少なくなかったといいます。その経験が、現在の入院前

支援に活かされています。

患者支援センターには、入退院支援室をはじめ、地域医療連携室、医療ソーシャルワーカー（MSW）、患者サポート窓口の看護師、医師事務作業補助者（MA）、居宅介護支援専門員（ケアマネジャー）など、多くの専門職が所属しています。

多職種がつなぐチーム医療

診療支援課課長代理の久保信裕さんは、「患者さんが安心して治療を受けられるという一つの目標に向かって、それぞれの専門職が連携しています」と話します。

地域医療連携室は地域の医療機関との橋渡し役として紹介患者さんの受け入れや専門医療機関への紹介を担い、医師事務作業補助者（MA）は診断書作成の補助やカルテ入力などを通して医師が診療に専念できる環境を支えています。それぞれ役割は異なりますが、患者さんを支える大切な存在です。

これまで別々だった部署が一つのセンターとなったことで、多職種同士の情報共有もよりスムーズになりました。

「あの患者さんなら私も知っています」「フォローをお願いします」。そんな何気ない声掛けが日常的に交わされ、職種の垣根を越えた連携が、一人ひとりに合わせた支援へとつながっています。

久保さんは、「まずは職員同士が安心して



患者支援センター課長
津田 京子

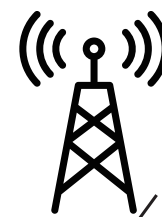


診療支援課 課長代理
久保 信裕

相談できる、風通しの良い職場であることが大切」と話します。

「患者さんにも、『困ったら患者支援センターへ相談すれば大丈夫』と思っていただけの場所でありたいですね」。

患者さんに寄り添う看護師の視点と、多職種をつなぐチームの力。入院前から退院後まで、一人ひとりに寄り添いながら支える患者支援センターは、今日も患者さんやご家族が安心して治療に臨めるよう、一人ひとりに寄り添いながら支え続けています。



病院薬剤師による

くすりと健康情報局

11
VOL

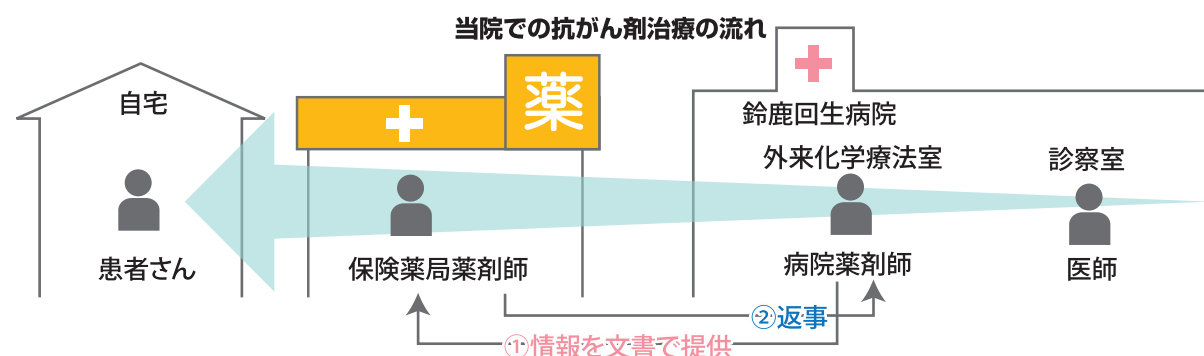
抗がん剤治療を地域で支える ～抗がん剤治療における薬薬連携～

薬薬連携とは、病院薬剤師と調剤薬局などの地域の薬局（保険薬局薬剤師）が治療に関する情報を共有し、連携して患者さんをサポートする取り組みです。当院では、抗がん剤治療を安全かつ安心して継続していただくため、病院と保険薬局がそれぞれの役割を担いながら、切れ目のない薬学的管理を行っています。今回はその内容について紹介します。

病院薬剤師の役割とは？

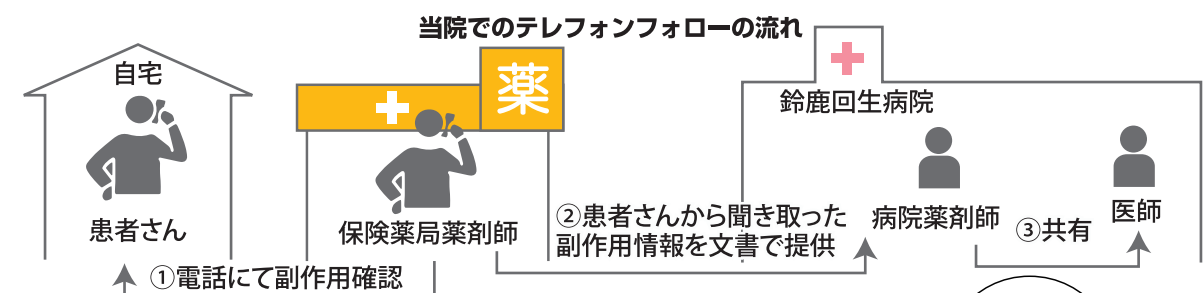
鈴鹿回生病院では、治療開始前や治療変更時には治療のスケジュールや副作用について説明するとともに、肝機能や腎機能などの検査値を確認し、抗がん剤の投与量が適切であるかを確認しています。治療開始後は患者さんと直接面談することで副作用の早期発見に努め、必要に応じ医師に情報提供や処方提案を行っています。

また、保険薬局へ情報提供書を作成し、治療内容や副作用、副作用軽減のために行っている対策などの情報を共有して連携することで、安全で質の高い抗がん剤治療を継続して行えるよう支援しています。



保険薬局薬剤師の役割とは？

保険薬局の薬剤師は、薬の飲み方や副作用について説明するとともに、服薬状況や副作用の有無、飲み合わせ等を継続的に確認し、必要に応じて病院へ情報提供を行っています。さらに、抗がん剤治療開始後や治療数日後に患者さんへ電話で連絡し、副作用の有無や服薬状況を確認する「テレフォンフォロー」を実施している保険薬局もあります。



病院と保険薬局が連携することで

病院と保険薬局が情報を共有して連携することで、副作用の早期発見・早期対応、服薬状況の確認、薬物相互作用による副作用の防止などが可能となります。私たちは患者さんやご家族の方が安心して抗がん剤治療を継続できるよう、支援していきます。お気軽にご相談ください。

筆者プロフィール

薬剤師 小西 紗矢

外科病棟での業務に従事するとともに、外来化学療法室での業務も担当。
日病薬病院薬学認定薬剤師
研修センター認定薬剤師



医食動源



身近にあるものを使ったエクササイズ

身近にあるもので簡単に行えるセルフケアを紹介します

【目的】・肩凝りの改善・リラックス効果 【使用するもの】・タオル

①背中を丸める
ストレッチ
(5回)

タオルを持ち、前にグーっと押し出すように背中を丸めながら
お腹をみるイメージで10～15秒キープしましょう。
また、肩甲骨を左右に広げるように意識しながら行いましょう。

②体を左右に
伸ばすストレッチ
(左右10回ずつ)

息を吐きながら体をゆっくり
左右に倒しましょう

理学療法士
草川 翔太

Point



- 1日1～2セット行いましょう
- 呼吸を止めずにゆっくり行いましょう
- 痛みの出ない範囲で行いましょう

発信@
栄養管理室管理栄養士
村上 清香ダブルタンパク質で
吸収率UP

☆ポイント☆

「動物性タンパク質」と「植物性タンパク質」を同時に摂るとタンパク質の吸収率が上昇し、筋肉合成が高まると言われています。今回は動物性タンパク質である鶏ひき肉と植物性タンパク質である絹ごし豆腐と油揚げを使用し、挽き肉と豆腐のふわふわ感にもやしのシャキシャキとした食感を油揚げで包んだいなりつくねを考案しました。もやしの代わりにれんこんを使用すると、また違った食感で美味しくなりますので是非お試しください。

栄養成分(いなりつくね2個分)

エネルギー	247kcal
たんぱく質	21.6g
脂質	14.9g
食物繊維量	2.7g
食塩相当量	1.2g

いなりつくね

【作り方】

- ①油揚げの8cmの辺に切り込みをいれておく
- ②たまねぎ、しめじ、まいたけ、もやしをみじん切りにしたもの、鶏ひき肉、豆腐を混ぜ、おろししょうが、ごま油、片栗粉を入れてよく混ぜる。
- ③①に②を詰める。上の部分を織り込んで見た目よくする
- ④フライパンに肉面を良く焼き付け、裏返し、水を入れて蒸し煮にする
- ⑤火が入ったら材料を取り出しタレの材料をフライパンに入れ、軽く煮詰める
- ⑥三つ葉を盛り付ける(今回は写真用に結んだが、通常は刻んで上にのせるか、なくてもよい)

【材料】1人2づけ 8個分

油揚げ (7×8cm)	8枚
鶏ひき肉	200g
絹ごし豆腐	200g
たまねぎ	小 1/2 個
しめじ	1パック
まいたけ	1パック
もやし	1/2パック
三つ葉	8本
おろししょうが	3cm
ごま油	小さじ1
片栗粉	小さじ5強

【タレ】8個分

ポン酢しょうゆ	大さじ4弱
砂糖	小さじ4
水	60cc
酢	大さじ3弱
おろししょうが	3cm

連携医療機関紹介

落合小児科医院

院長
落合 仁副院長
落合 悟

親子二代で受け継ぐ地域医療

今年4月3日、落合小児科医院は院内をリニューアルするとともに、ご子息である悟先生が診療に加わり、新たなスタートを切りました。大正3年に「落合医院」として開業し、100年以上にわたり地域医療を支えてきた同院。昭和62年には仁先生が「落合小児科医院」を継承し、以来約40年にわたり地域の子どもたちを見守ってこられました。



今回のリニューアルでは、健診や予防接種などで来院されるお子さんと、発熱など感染症状のある患者さんの待合スペースを分け、安心して受診できる環境を整備。さらに以前よりWEB問診を導入し、待ち時間の短縮や症状の伝え漏れ防止など、患者さんの負担軽減にもつなげています。

時代とともに変わる小児科の役割

約40年間、地域の子どもたちを診てきた仁先生は、医院を継承した頃と比べて、子育てを取り巻く環境が大きく変わったと話します。「核家族化が進み、子育てについて相談できる人が少なくなりました。共働き家庭

も増え、子どもたちは習い事などで忙しく、人とのコミュニケーションが苦手な子も増えているように感じます」。だからこそ今、小児科医には病気を診るだけでなく、出産前後のお母さんの心のケアや子育ての相談など、家族全体を支える役割も求められているとい



▲感染症情報ボード

子どもの声も、
ご家族の思いも大切に

今年4月から診療に加わった悟先生は、帝京大学医学部卒業後、同大学医学部小児科学講座で助手を務め、小児神経疾患や小児がん診療など高度な小児医療に携わってこられました。その経験を生かし、現在は地域の子どもたちとご家族に寄り添う診療に取り組んでいます。

診療では、お母さんだけでなく、お子さん本人にも必ず声をかけ、最後には「ほかに何かありますか?」と尋ねることを心掛けているそうです。また、「子どもは何度か診療を重ねる中で少しずつ心を開いてくれます」と話す悟先生。親御さんとのコミュニケーションも大切にし、長く通院されているご家族の中には、「先生」というより友達のような感覚で何でも話してくださる方もいるそうです。

「何気ない会話が診療のヒントになることも少なくありません。だからこそ、相談しやすい雰囲気を大切にしています」。その姿勢からは、病気だけでなく、お子さんやご家族に寄り添いたいという思いが伝わってきました。

患者さんへのメッセージ

～何か心配なことがあれば、どんな小さなことでも遠慮なく相談してください。当院で対応が難しい場合は、鈴鹿回生病院さんをはじめ、症状に応じた適切な医療機関をご紹介します。地域の医療機関と連携し

DATA

TEL 0595-82-0121

住所

亀山市東台町1-17

診療科目

●小児科

一般診療 要予約

午前／8時30分～12時00分

午後／16時00分～19時00分

	月	火	水	木	金	土	日
午 前	○	○	○	○	○	○	×
午 後	○	○	○	×	○	×	×

*当面の間、毎週木曜日は休診

予防接種 要予約

月曜・水曜・土曜

午後／14時30分～15時30分

乳児健診 要予約

火曜

午後／12時30分～13時00分

火曜・金曜

午後／14時30分～15時30分

<https://ochiai-p.hp4u.jp>

ながら、お子さんとご家族を支えていきたいと思っています。そして、お子さんにはたくさん愛情を注ぎ、たくさん褒めてあげてください。それが、お子さんにとって何よりの力になると思います～

病気を診るだけでなく、子育ての不安にも寄り添い、必要に応じて地域の医療機関へつなぐ。親子二人の医師が力を合わせ、新たな体制で歩み始めた落合小児科医院は、これからも地域の子どもたちとご家族を温かく見守り続けていくことでしょう。

